

新年のあいさつ

明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。
旧年中は皆様のご理解ご協力を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。
新年を迎えるにあたり、改めて私共々「とちぎの郷」のあらまをお伝えいたします。当施設は、栃木地区の地域完結型医療を目指す「とちぎメディカルセンター」の中で介護分野を担っており、利用者様の「楽しい・笑顔・生きがい」に繋がるよう、様々なレクリエーションや行事に力を注いでおります。本格的なお茶を振る舞う「お茶会」を始め、四季を実感できる様々なイベントを毎月開催。去る、12月20日にはさかばし矢波様（東京フィルハーモニー交響楽団フルート奏者）が毎年恒例のクリスマスコンサートで、素晴らしい生演奏を届けて下さりました。
こうしたボランティアの方々による楽器演奏・歌・作品作り等のお力添えは、利用者様と地域との架け橋となっており、大変ありがたく思っています。今後もスタッフ一丸となってチームワークを発揮し、利用者様にとってより良い施設を築き上げてまいります。



施設長 早乙女 勇

あけましておめでとうございます。日頃よりとちぎの郷をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
31年は、新たな元号となります。そして、新元号となる4月にはとちぎの郷は4年目を迎えます。とちぎの郷は地域に根ざした施設・在宅復帰支援施設として役割を持ち、より多くの方々にご利用いただきたいと考えております。私達が暮らすこの栃木市は市町村合併以降、宇都宮市・小山市に続く、県内で3番目に多い人口になっています。しかし、宇都宮市・小山市は15歳未満の人口が県内で7番以内にあるのに対し、栃木市は17番目となっています。つまり、高齢者率が高い市であるということが示されています。だからこそ、栃木市で掲げる「住み慣れた地域で、共に支え合い、高齢者が自分らしく生きるまち」を作り上げていくことが大切であり、我々としちぎの郷は、栃木市にある施設として重要な役割を果たすことが求められています。新築移転から4年目を迎えるにあたり、こうした役割を十分に発揮できる介護老人保健施設として、職員一同邁進していきます。



看護副部長 福田 裕美子